

ひょうごネットトラブル防止ワークショップ スマホサミットinひょうご2025

安全・安心なインターネット利用を青少年が自ら学び、考えるためのワークショップを開催し、その活動成果をスマホサミットで発表することで、大人と子どもがともに考え、学び、取組の輪を広げる機会とする。

- (「青少年のネットトラブル防止大作戦」推進会議の構成員)
- ・兵庫県立大学環境人間学部 竹内 和雄 教授【座長】
 - ・神戸親和大学教育学部 金山 健一 教授
 - ・神戸大学大学院医学研究科 菅良 一郎 特命教授
 - ・幸地クリニック
 - ・兵庫県立神出学園
 - ・(一財)野外活動協会
 - ・淡路市ICTクラブ協議会
 - ・あわじ次世代テック推進会
 - ・兵庫県PTA協議会
 - ・阪神南こころ豊かな人づくり委員会
 - ・青少年本部神戸事務局
 - ・(株)サンテレビジョン
 - ・日本放送協会神戸放送局
 - ・(株)神戸新聞社
 - ・(株)朝日新聞社
 - ・(株)ドコモCS関西
 - ・(一社)いえしま自然体験協会
 - ・兵庫県教育委員会事務局教育企画課
 - ・神戸市教育委員会事務局学校教育部学びの推進課
 - ・兵庫県警察本部サイバー企画課
 - ・兵庫県警察本部少年課
 - ・兵庫県県民生活部男女青少年課
 - ・(公財)兵庫県青少年本部【事務局】

事業の概要

- 1 ひょうごネットトラブル防止ワークショップ
 - 2 スマホサミットinひょうご2025
- ・対象者：県内に在住、在学の小学生、中学生、高校生
 - ・参加校：小林聖心女子学院
神戸市立太田中学校
たつの市立龍野西中学校
たつの市立御津中学校
滝川第二中学校・高等学校
兵庫県立姫路東高等学校
関西学院高等部
 - ・主催：【文部科学省受託事業者】(株)メディア開発総研
 - ・共催：(公財)兵庫県青少年本部、兵庫県、(一社)ソーシャルメディア研究会
「青少年のネットトラブル防止大作戦」推進会議
 - ・後援：総務省近畿総合通信局、(公財)KDDI財団
 - ・コーディネーター：兵庫県立大学環境人間学部 竹内 和雄 教授
 - ・ファシリテーター：(一社)ソーシャルメディア研究会 計16名

事業のねらい

- ・青少年が安全・安心にインターネットを利用するために必要となる視点等を学ぶワークショップを開催し、様々なネットトラブルを自分ごととして捉えるとともに、参加者同士の議論の中で多様な意見に触れる機会を提供する。
- ・安全・安心なネット・スマホの使い方や効果的なルールづくりのポイント等ワークショップで議論したことを踏まえて、各校で実施した取組を共有するとともに、ネット・スマホに関する提言を題材に意見交換をすることで、大人と子どもが一緒になって考える機会を提供する。

事業の内容

- 1 ひょうごネットトラブル防止ワークショップ
○日時：令和7年9月20日(土) 13:30~16:00
○場所：神戸市産業振興センター8階 会議室802・803
○参加者：32名(7校・小5~高3)
○内容：ひょうごケータイ・スマホアンケート結果の共有
各学校で実施する取組を検討するグループワーク



本事業の問い合わせ先

公益財団法人兵庫県青少年本部企画部(県民運動担当)
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1 兵庫県県民生活部男女青少年課内
Tel : 078-362-3142 E-mail : danjoseishounen@pref.hyogo.lg.jp HP : http://www.seishonen.or.jp/

POINT 1

■青少年の主体的な取組

ワークショップやスマホサミットを通じて、ネット利用を自ら学び、考えることで、主体的に取り組むことの楽しさや重要性を認識できる機会となった。

POINT 2

■地域等の垣根を越えた議論

県内様々な地域から、学校や学年の垣根を越えて集まった生徒同士で、多様な考えを共有するとともに、その場限りとするのではなく、議論の結果を各学校へ持ち帰り、今後の学校活動に役立てる機会とした。

POINT 3

■大人と子どもがともに考える

スマホサミットでは、意見交換を行い、子どもたちの大人に対する正直な意見を引き出すことができた。「大人と子ども」の構図ではなく、「大人と子ども」が一緒に考える重要性を共有した。

資料3

2 スマホサミットinひょうご2025

- 日時：令和7年12月14日(日) 13:00~16:00
- 場所：兵庫県立のじぎく会館 大ホール
- 参加者等：参加者31名(7校・小5~高3) 引率・観覧者44名 計75名
- 内容：参加校からの取組紹介
「人とつながるオフラインキャンプ2025」結果報告
参加者(子ども、保護者、教員、企業)による意見交換

○参加校の主な取組

- ・校内スマホサミットの実施
- ・啓発動画の作成
- ・地域・保護者への発信
- ・地域の小・中学校での講演
- ・校内でのスマホ使用に関するアンケート
- ・スマホ関連フォーラム等への参加や企業との連携

○意見交換での主な意見

- ・家庭で話し合っただけで決めるルールを子どもだけでなく、大人も守ってほしい。
- ・スマホやネットの利用を禁止するのではなく、子ども自身で自制できるように支援を行うことが大事。
- ・大人が子どものネット事情を理解して、子どもとともに上手な使い方を考えてほしい。

※終了後に参加校の取組について参加者による投票を行い、評価が高かった3校(小林聖心女子学院、滝川第二中学校・高等学校、関西学院高等部)が「近畿スマホサミット2026」で取組を発表



事業のねらいに対する成果

- ・ワークショップでは、県内青少年のスマホ利用状況等を調査したアンケートを題材にすることで、ネット・スマホの問題を可視化して認識するとともに、地域、学校、児童・生徒や教員の垣根を越えた参加者で取組について意見交換することで、多様な考えを共有する機会となった。
- ・スマホサミットでは、参加者が事前に考えたネット・スマホに関する提言を題材として意見交換することで、大人と子どもがそれぞれの立場から一緒に課題に向き合う機会となった。
- ・取組発表では、各校で取り組んだことを発表する機会を提供するとともに、ワークショップやサミットでの意見交換により、各校の取組の特色や優れた部分の認識・共有を図った。

課題と今後の展望

- ・スマホ・ネットを適切に利用するためには、スマホサミットでの意見交換のように、子どもたちだけでなく、大人と一緒に考える取組を広げる必要がある。
- ・保護者は、子どもに比べてネットやスマホのことを考える機会があまりないため、保護者への啓発に取り組む必要がある。
- ・ネット利用の低年齢化が進んでいるものの、低学年の小学生が中学生に交じって、発表や意見交換を行うことは心理的負担が大きいことから、家庭における保護者と子どもの話し合いによるルールづくり等、低年齢の子どもが大人と一緒に考える取組を引き続き推進する。
- ・地域で啓発を行っている学校や団体に加えて、本事業と同様のサミットを開催している県内市町や団体がある一方で、本事業を含めたこれらの取組は対象が限定的であることから、本事業での取組の輪を参加校以外の学校や団体にも広げていくため、県として、より多くの地域でこれらの活動が開催できるよう支援しつつ、新たな取組も考えていく必要がある。